

# もりや里山新聞

‘23/5/27

【土曜日】

発行

守谷里山ネットワ

## 一、立沢里山に三代目稲わら妖怪アマビエ登場

新型コロナウイルスが世界的に蔓延して三年目になります。里山では稲刈り後の稲わらを活用して疫病退散を祈願して令和二



完成して里山を見守る妖怪

年に妖怪「アマビエ」を製作しました。当初は単発一時的なものを想定していましたが、昨年令和三年もコロナは終息しなかったことから二代目を製作しました。令和四年、三年目になっても第八波が過去最大の感染者数を記録

しておりアマビエ制作を継続することにしました。今回は疫病退散に向けて我々の気迫を示すことも大切と考え、稲わらだけでなく「マコモ」の葉を活用し、青竹で角も付けました。マコモ葉は長く波打って迫力がありましたが、道行く子供が怖がってはいけなないと片目だけ愛嬌をつけました。最近ではマコモを知る人は少なくなりましたが、利根川湿地の原植生ともいえるもので、古くはお釈迦様が病人をマコモで編んだ筵に寝かせて治療したともいわ

れ、疫病退散の御利益があると言われていると思います。

現在も利根川周

辺の湿地には自生しています。立沢里山ではマコモダケの収穫を目的として、数年前から耕作放棄地を再生して栽培をしています。マコモダケは健康食品として道の駅などでも販売されるようになりました。一〇月頃に収穫した後の葉を乾燥させて活用しました。角は正月飾りの門松を転用しました。今年こそコロナが終息してほしいものです。

### 目次

1. 三代目稲わら妖怪アマビエ登場
2. 立沢里山の会で活動「20周年記念誌」を発行
3. 竹林整備と炭窯の欠損
4. 子供会山菜採り体験、ワラビ初出荷
5. 四年ぶりに三小学校合同田植え、市広報誌で特集

### 守谷里山ネットワーク

〒302-0119

守谷市御所ケ丘 5-25-1 守谷市民活動支援センター

☎ 0297-46-3370

メール [denen21@ktb.biglobe.ne.jp](mailto:denen21@ktb.biglobe.ne.jp)

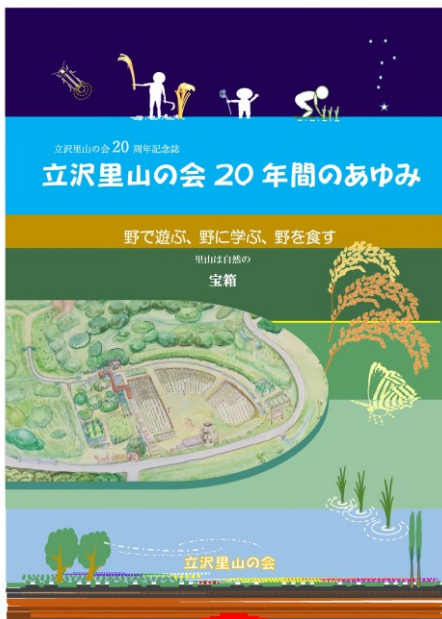
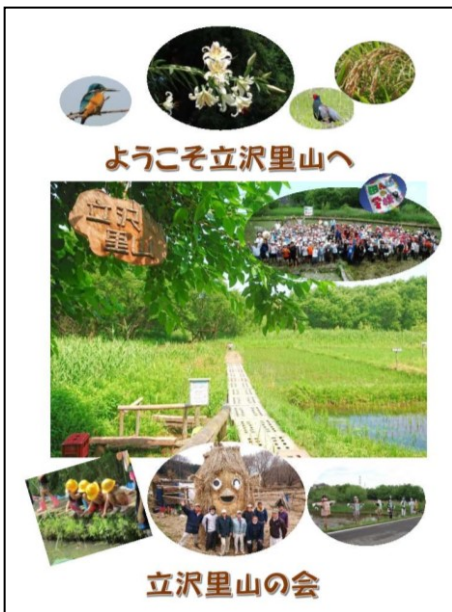
ホームページ

[「守谷の里山」](#)

<http://satoyama.moriya-nature.com/>



守谷市では、多くのボランティア団体が各地で、手作りによる里山づくりを行っています。何か地域で活動してみたい/自然と関わりのある活動してみたい/子供たちの遊び場を作ってみたい/みんなで楽しく汗をかいてみたいそんな思いをお持ちの方は、ぜひこの機会にご一緒に活動してみませんか。



**「立沢里山の会」  
で活動「二〇周年記念誌」を発行**

立沢里山の会は二〇〇〇年十二月に設立し、翌年から本格的な活

動を開始し、二十年を経過しました。

当初は活動二〇周年を記念し、守谷里山ネットワークなど関係団体と協力して「守谷里山祭り」の開催を企画しました。

ところが、二〇二〇年は突然の新型コロナウイルスが発生、世界的なパンデミックとなり、東京オリンピックまで開催延期される事態となるなど、大勢の人が集まる行事は取り止めることとなりました。そこで、会員が話し合い、今後に向けて、これまでの活動を振り返り、記念誌制作を行うこととなりました。しかし、二〇年も経

過すると、初代の会員はほとんどが入れ替わり、詳細な経過を知る人は少なくなっていました。コロナ禍で直接会って話を聞いたり資料を集めるのも大変な作業となっていました。

時間と手間暇がかかり、やや遅れましたが令和三年度末に概略で取りまとめることができ、令和四年後半に印刷製本にこぎつけることができました。全七八ページ、カラー印刷です。

目次にあるように、写真を多用して二〇年の活動経過を整理したほか、ボランティア活動の実践を通して様々な体験談がまとめられ、多くの関係者の寄せ書き、里山の動植物紹介なども掲載され、誰にでも解りやすく気軽に読める内容となっています。

興味のある方は問い合わせください。本誌だけでなく、里山新聞などもホームページで公開しています。

今後に向けて、これまでの活動を振り返り、記念誌制作を行うこととなりました。しかし、二〇年も経

**目次**

「立沢里山の会」活動20周年を迎えて	立沢里山の会 会長	清野 修	1
「立沢里山の会」の20周年を祝して	守谷市 市長	松丸修久	
里山の会 20周年を迎え	守谷市農業委員会 前会長	海老原邦夫	
I. 立沢里山の20年を振り返る			3
II. 皆が楽しい立沢里山 (立沢里山の紹介)			10
III. 里山は自然の宝箱 (立沢里山のいきもの)			14
IV. 守谷の自然と市民活動			19
V. 写真で綴る立沢里山の20年			31
VI. 里山新聞の発行等			59
VII. 20周年に寄せて			63
「立沢里山の会」活動20周年を祝して	守谷市教育委員会 教育長	町田 香	
立沢里山体験からの学び	御所ヶ丘小学校		
稲作体験を通して	松前台小学校		
立沢里山の会20周年に寄せて	大井沢小学校		
里山20年を迎えて	立沢里山の会 初代会長	鈴木 榮	
立沢里山の会発足 20周年おめでとう	守谷やまゆりの会会長	浅川利夫	
20周年を祝って	立沢里山の会 初代副会長	奥村峰子	
立沢里山での観察会	会員	新田ミチ子	
里山に魅せられて	会員	南 哲郎	
立沢里山と私	会員	小田原 実	
VIII. 立沢里山の会活動年表			69
資料一覧 (CD 収納)			77
編集後記			78

表紙「鳥瞰図イラスト/川内明子」

### 三. 竹林整備と炭窯

#### の欠損

冬季は竹林整備と炭焼きが恒例作業で、今回は一ヶ月早めて、令和五年二月に窯入れと火入れ、三月に窯出しの日程としました。

二月十八日(土) 定例作業で博物館内の炭窯へ搬入して速やかに窯詰めし、二一日(火)本火入れと順調に進んでいました。ところが火入れ数日後に突然のアクシデントです。窯の上部に穴



があいて中止・火止めとなりました。炭窯は里山の会も参加して自然博物館のセミナーで

平成七年度末に制作されたもので、すでに十五年以上経過して老朽化が進み、最近はコロナ禍の影響で使用間隔が長引いたなどの影響があったかもしれません。

窯詰めを終えて



部分欠損した炭窯



元気にタケノコ掘り



した。二日間で親子のべ四〇名近くが参加しました。子供たちは初めてのタケノコ掘りに大騒ぎで、慣れない道具に挑戦しながら大きなタケノコを掘るたびに歓声が上がります。近くのワラビ畑で

### 四. 子供会山菜採り体験、ワラビ初出荷

ニュータウンの人達は周辺の里山は日常的な風景として見ているも触れ合うことは少なく、特に山菜採りなどは私有地に立ち入るのなかなか体験する機会がありません。

里山の会では数年前から地主さんのご理解ご協力を頂いて子供たちの山菜採り体験を企画しています。

今回は四月二十九日(土)、三〇日(日)の二日間、御所ヶ丘小学区の「ひまわり子供会」が参加して「山菜採り里山体験」を実施しま

は、不思議な植物に興味津々でした。実はこのワラビは数年前から里山の会の会員が栽培していたもので、一般市民の山菜採り体験に開放するほか、あまりにも生育状況が立派でもったいないと、今年から試験的に出荷しています。

出荷用のワラビ



稲わら妖怪が笑顔で出迎



一斉に並んで田植



田植えを終えて



久しぶりに里山は子供たちの歓声が響き渡り、幸い天気にも恵まれ、泥だらけになりながら、一時間ほどで無事田植えを完了できました。今回は四年ぶりの三校合同開催ということもあり、市役所広報課から取材がありました。守谷市広報誌六

**五、四年ぶりに三小  
校合同田植え・守谷市  
広報誌で特集**

コロナもようやく落ち着いてきて、令和五年は四年ぶりに田んぼの学校の田植えを通常通り三校合同で開催できることとなりました。コロナ禍の影響でこの三年間は子供の参加が中止、あるいは各学校の分散開催となりました。

五月十二日(金)北守谷の御所ヶ丘、松前台、大井沢の三小学校の五年生二百数十人が里山の田んぼに賑やかに勢揃いしました。守谷市の教育長も駆けつけて挨拶を頂きました。疫病退散を祈願して制作された「稲わら妖怪アマ

ビエ」も皆を笑顔で迎えました。(ご利益があったのかもしれない。)



守谷市広報誌'23.6月号

月号に「里山で笑顔に！」と題して特集号が掲載されました。

**【編集後記】**

里山新聞は、守谷市内で里山活動に取り組んでいる皆さんからの情報提供が何よりも重要です。

本紙への活動報告、行事の予告など記事をお寄せください。

こちらまで

メール⇒[denen21@ktb.biglobe.ne.jp](mailto:denen21@ktb.biglobe.ne.jp)

